

学生企画活動支援事業報告

秋のお出かけ

昨年度まで行っていた『ウィンターキャンプ』に続く企画として、より多くの子どもや青年が参加できる企画を目指し、今年度から『秋のお出かけ』を行いました。これは、学生が、障害を持つ子どもや青年たちとお母さん方と一緒に、普段親子だけでは行くことが難しい遠い場所までバスでお出かけして、みんなの余暇を楽しみ充実したものにしよう、という企画です。

今年度は、六甲山牧場へお出かけしました。当日は子どもから大人まで、胸を弾ませるほど真っ青な空と六甲山の緑が美しく、そんな自然に囲まれ、みんなでランチを食べたり、動物と触れ合ったり、牧場の新鮮な牛乳でアイスクリーム作りをしたりしました。

バスの中で一人一人マイクを使って話す場面では、子どもや青年の成長した姿も見ることができました。学生が保護者とじっくりお話することもでき、普段聞くことのできない保護者の考えや思いの一部も知ることができました。

動物たちと触れ合う場面では、シールラリーをしながら、エサやりをして可愛い動物に癒されたり、緑に囲まれてのんびり過ごしたり、今まで触れたことのない動物にチャレンジして初めて触れたり、一人一人のペースで楽しむ姿が見られました。

アイスクリーム作りでは、全員が積極的に参加することができ、嬉しそうに生き生きとした表情や真剣に取り組む姿を見ることができました。出来上がったアイスを生きた保護者に分けてくれる微笑ましい場面もありました。

たくさんの笑顔を見ることができ、子どもの成長を喜ぶお母さん方の声も聞くことができて本当に素敵なお出かけになりました。

(記事:特別支援教育専修 2回生 藤井 愛華)



おいでよ! わくわく☆造形ひろば

～第16回「造形ひろば」～

造形ひろばは、地域の子どもたちと造形遊びや作品づくりを通して触れ合う場です。本企画は、大学祭の日に開催しており、今年で16回目を迎えることができました。毎年、本大学の附属小学校・中学校の子ども達だけでなく、地域の学校の子ども達や、宣伝を見て訪ねてくれる子ども達など多くの参加者で賑わっています。毎年恒例の「本物そっくり」に作るハイクレイ粘土に加え、今年は、幼児・小学低学年向けの土粘土や紙粘土ブースも加わりました。粘土以外では、光と色の「キラキラ箱」・描いた絵が動く「あかあおアニメーション」・自分だけの「オリジナルパッチ」、というブースを用意し、幅広い年齢層の子どもたちに楽しんでもらうことが出来ました。

子どもたちは、学生スタッフに教えてもらいながら、材料に触れ、自分たちで試行錯誤しながら、作ることの面白さや楽しさを味わうことができていたと思います。また、自分の力で作り上げたという喜びと達成感を味わう笑顔もたくさん見ることが出来ました。付き添いの保護者の方も、「これいいね!」と質問をして下さる方もおり、親子揃って作る楽しさを実感してもらえたと嬉しく思います。

本企画スタッフも、題材研究をはじめ子どもたちと触れ合うことでよい学びになりました。

今年は300人を超える過去最多の参加者を迎えることができ、来年もさらにこの活動を盛り上げていきたいです。

(記事:美術教育専修 4回生 關 瑞季)



楽器ふれあいコンサート

「楽器ふれあいコンサート」は、実際に幼稚園や保育園・福祉施設を訪問し、生の音楽(吹奏楽)を聴いてもらい、音楽により親んでもらうことを目的としています。普段はCDやテレビ、携帯電話やインターネットなどといったものを通じて音楽に触れていると思いますが、子供たちや高齢の方が実際に生の音楽を聴く機会は特に少なくなっています。

そこで、この事業を通して生の音楽に触れてもらいたいと考え企画しました。今年度は夏休みや春休みの期間を利用し、奈良市内の幼稚園6ヶ所、奈良市内の保育園5ヶ所、認定こども園5ヶ所、介護老人施設1ヶ所、奈良県立の養護学校1ヶ所の計18ヶ所を訪問し、演奏させていただきました。

楽器ふれあいコンサートでは、演奏のほかにさまざまな側面から音楽を楽しんでもらうことができるよう、企画を用意しました。なかなか触れる機会のない楽器を実際に触ってもらう「楽器体験」や、違う楽器を持った3人の中で誰が楽器を演奏しているのかを当てる「楽器クイズ」、曲に合わせて掛け声やリズムゲームなども行いました。訪問先の方からも、「音楽に興味を示し、参加しながら楽しむことができた」、「音楽に親しむ素晴らしい機会になった」といったお言葉をたくさんいただき、私たち自身も音楽の力の偉大さを感じることができました。これからたくさんの方に音楽の楽しさ・素晴らしさを感じていただけるように活動していきたいと考えています。

(記事:社会科教育専修 2回生 松村 歩美)

